

平成29年10月31日

筑紫野市議会
議長 横尾 秋洋 様

建設環境常任委員会
委員長 大石 泰

平成29年度 建設環境常任委員会行政視察研修報告書

建設環境常任委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

1. 視察日

平成29年10月10日（火）から 12日（木） 2泊3日

2. 視察先及び研修項目

石川県能美市 定住促進支援制度と空家等対策計画について 10月10日（火）

富山県高岡市 万葉のふるさとづくりのための取り組みについて10月11日（水）

石川県白山市 第2次白山市地産地消推進計画について 10月12日（木）

3. 視察者

委員 大石 泰委員長、山本 加奈子副委員長、田中 允委員

辻本 美恵子委員、赤司 泰一委員、中山 雄夫委員

議長 横尾 秋洋議長

執行部 森下 義明部長

随 行 中村 淳二議事課主査

4. 内 容 別添のとおり

石川県 能美市

視察日 平成29年10月10日

説明者 地域振興部 地域推進課 課長 中出真弓様

【能美市の概要】

日本で有数の先端科学技術大学院大学「JAIST」を中核機関とした「いしかわサイエンスパーク」では、産学官の連携を推進し、新たな知の創造と開発力を生み出すことを目指している。

能美市：人口 50,104人、面積 84.14km²（平成29年10月1日現在）

議員定数 18人

【視察目的】

本市は現在「空き家等対策計画（案）」を作成中であり、平成29年度中に完了したいとの報告があった。能美市の空き家等対策計画はじめ、定住促進補助金交付要綱及び、住まいに関する助成制度の各種補助についての取り組みを参考とするため行政視察を行ってきた。

【質問事項】

（1）定住促進補助金（新生制度）において、対象世帯を45歳未満とした理由は何でしょうか？

回答：能美市人口ビジョン、総合戦略において「バランスの取れた年齢別人口の確保」を図ることが目指されている。具体的には年少人口（～14才以下）と生産年齢人口（15歳～64歳）の長期安定的な確保を図る。そのため該当する年齢階層の人口増に補助金の対象世帯的を絞りメリハリのある支援を行っている。

（2）住まいに関する助成制度それぞれの申請件数はどれくらいでしょうか？

回答：平成28年度実績として定住促進補助金97件（307人定住確保）、三世代ファミリー同居・近居住宅促進事業20件（116人定住者確保）、ワーク・イン・レジデンス制度3件（4人定住者確保）、加賀の木づかい奨励金3件、自然エネルギー設置補助金47件、自立支援型住宅リフォーム推進制度8件、耐震改修補助制度38件）

（3）これらの助成制度の周知方法はHP以外にどのようなものがありますか？

回答：市役所 facebook ページ、市役所広報紙「広報のみ」、定住促進案内パンフレットを県外の「ふるさと回帰支援センター」「移住交流情報ガーデン」「LAC 東京」等に設置、東京都、大阪府等で開催される移住交流イベントでのチラシ配布、JOIN(移住・交流推進機構)、石川県（いしかわ暮らし情報ひろば）のHP、「家ナビ」（地方雑誌）の掲載ほか問い合わせにより情報提供。

（4）定住促進補助金の交付要綱によれば、平成34年3月31日で効力を失うとなっていますが何故でしょうか？

回答：第二次総合計画（10年）がスタートする平成29年度から前半が終了する平成33年度までの5ヵ年とした。5年間の人口動態や人口構成の変化を踏まえ、時代の変化に対応した制度の見直しを検討している。行財政改革の視点から、時限を設けて当補助金の成果検証を行うための制度設計。

（5）空き家対策セミナーの内容はどのようなものでしょうか？

回答：平成 28 年度は 8 月 11 日に能美市で宅建協会主催、小松市、白山市、能美市協賛で空き家対策セミナーを開催し約 100 名が参加。(尚 H29 年度は白山市で開催し約 60 名が参加)

(6) 空き家等対策計画を策定された際に工夫された点、苦労された点をお教え下さい。

回答：平成 27 年度に策定したが、当時は前例がない中手探りで作成しなければならなかった。予防・活用・除却の観点から空き家等対策計画を策定したが、権利の問題などが顕在化しており定期的に見直しが必要と感じている。これまで経験したことがない業務のフローチャートなどを作成する必要があり苦労した。庁内連携体制を決定する際に、空き家対策に関係する全ての部署と協議しなければならなかったので苦労した。

【質疑応答】

Q:パワーポイントの定置網漁をイメージした図に関して 3 課の交流は？

A:観光交流課は昨年までは同じ部だったのと、市長戦略室は同じ部なので、連携は密に取れている。1 カ月に一度打ち合わせを行っている。

Q:子育てしやすい能美に市民が協力的とあったが、具体的に。

A:まちづくりの団体さんとのつながりがあり、協力してくれる。健康福祉部が子育て支援。連携しながら、声かけして協力をしてもらおう。子育て体験ツアーを石川県がするので、能美市も参加している。

【まとめ】

能美市は地域振興部という課があり、連携に必要な課が同じ部にあるという事で、連携がとりやすく、また地域との繋がりが良好に保たれていると感じた。本市においても、空家等対策を進める本来の意味は、危険な家屋の調査もあるが、その利活用を地域に必要とされるものにする為でもあると考える。その為には、地域と行政の繋がり、又関係する所管課の連携が必要だと実感した。

【状況写真】

1. 能美市地域振興課から説明を受ける各委員



富山県 高岡市

視察日 平成29年10月11日

説明者 市長政策部 文化創造課 課長 大野洋靖様
産業振興部 観光交流課 係長 宮崎篤生様

【高岡市の概要】

南北の交通軸には東海北陸自動車道と能越自動車道が整備され、東西の新しい交通軸には北陸新幹線が開業し（平成27年3月）、新たな交流拠点都市として新たな飛躍を目指している。

高岡市：人口173,425人、面積209.57km²（平成29年3月末）

議員定数 30人（現員数26人）

【視察目的】

本市も万葉の歴史もあり、観光資源がある。高岡市は、高岡万葉まつり等イベントが多々あり、高岡市観光振興ビジョンを平成28年3月に策定されている。本市も観光資源を生かした取り組みが出来ないか、高岡市を参考とするため行政視察を行ってきた。

【質問事項】

（7）高岡万葉まつりの概要について、また「万葉ふるさとづくり」の為に開催しているイベント等について

回答：高岡万葉まつりの概要は、万葉ふるさとづくりの一環として昭和56年から実施しているイベント。平成2年から万葉集全20巻朗唱の会もしている。又、全国万葉短歌大会、大伴家持顕彰祭、故地めぐりバスツアー、万葉大茶会、万葉マラソンなど。

（2）「万葉ふるさとづくり」の為に市としてどのような事業を行っているか。

回答：高岡市万葉歴史館（昭和61年に市政100周年記念事業の一つとして計画され、平成2年10月28日に会館）、万葉植物園など。

（3）観光振興ビジョン策定において市役所内各部者や関係団体の意見をどのように集約したのか。苦労した点について。

回答：平成27年9月～28年3月までに観光戦略ネットワーク会議を開催し、計画策定に係わる検討を進めていくことの承認を得るとともに経過説明及び意見交換を行った。（5回開催）

（4）観光振興ビジョン策定から1年半が経過しているが、広域観光の取組・富山県DMOとの連携・二次交通の充実の各項目の現状について。

回答：体験プログラム・着地型旅行商品の充実として県内滞在時間・消費増額を目的に実施し、①「観光販売システムズ」へ商品造成・販売・精算事務を委託（平成28年度約25000人へ販売）②機構においても、着地型旅行商品の造成・販売（平成27年9.1～29年3.31 518人へ販売）③新旅行造成市町村タイアップ（大人33旅）市町村と連携した体験プログラムの造成（年2回春秋）④地域ならではの観光資源を利用した一例、富山地方鉄道と連携し通常入ることの出来ない電車車庫を見学できるツアー商品を企画しプロモーションも実施（平成28年度実績：催行回数6回・参加人数84人）

(5) 観光ボランティアガイドの要請の現状について。

回答：平成 24 年 548 件、観光客数 19261 人、派遣人数 745 人、毎年増加し、平成 28 年件数 1010 件、観光客数 28818 人、派遣人数 1248 人です。(平成 27 年は新幹線開通により一番多かった)

(6) 観光客おもてなしの環境づくりの現状はどのようになっているか。

回答：北日本新聞にも掲載されたが、観光関連事業者に向けた観光力レベルアップ講座が開催され、参加者約 50 人が学んだ。1 部は外国人観光客おもてなし研修会で、JTB サポート中部の通訳案内士が中国や台湾の観光客の特徴や対応方法について講義、食の好みや考え方の違いを説明。2 部は、高岡市観光客動向調査報告会で、2016 年 11 月に市内で学生と一緒に実施したアンケート調査の結果を報告した。

【質疑応答】

Q:これだけのことを自分たちでしたのか？委託したのか？

A:委託というよりは、市で記念事業を考え、指定管理をしている各施設とも連携しながらやった。万葉の歴史と文化ものづくり、高岡市なので、ときにはコンサルもいれたり、城下町なので、反骨精神がある方が多い。町人たちがお祭りを作ったりしていた歴史があるからか、現代でも市民運動が盛ん。

万葉線も市民運動で残った。(映画ナラタージュの撮影に使われた) 古城公園も市民運動で残った。

Q:万葉植物園は？筑紫野市にも細々あるが。維持管理は？

A:こちらも細々している。都市公園と同じような維持管理をしている。整備してから年数も立っている。

【まとめ】

高岡市は市の歴史を万葉も含め、すべて観光の財源として感じたと感じた。高岡市だけでなく、広域にわたり、連携をしている。県や他市とコラボしているのも特徴である。本市においても、太宰府という観光客が多数きている市があるのだから、太宰府市とのコラボ企画や、福岡県、福岡市、近隣都市と一緒に観光客誘致に向けた、取組をするべきだと考える。

【状況写真】

1. 高岡市関係各課から説明を受ける各委員



2. 高岡市万葉歴史館を視察中の各委員



石川県 白山市

視察日 平成29年10月12日

説明者 産業部 地産地消課 課長 清水一規様

【白山市の概要】

手鳥川扇状地の良好な農用地における「こしひかり米」や白山ろく地域における「そば」などの生産が盛んに行われています。

白山市：人口 112,924 人、面積 754.93 km²（平成29年3月末）

議員定数 21人

【視察目的】

本市の地産地消は現在、JA 筑紫「ゆめ畑 筑紫野店」が平成21年12月に西鉄筑紫駅から徒歩3分の場所に開店し地元農家が生産した農産物や手作りの農産加工品が販売されている状況ですが、白山市の第二次白山市地産地消推進計画である、「白山を食べる」という取り組みを参考とするため行政視察を行ってきた。

【質問事項】

(1) 推進計画策定の経緯及びどれくらいの頻度で見直しをしているか？

回答：経緯については、平成21年4月地産地消課を設置し、生産者と消費者とを結びつける地産地消の推進と、健全な食生活を実践する食育の推進。同年6月、地産地消推進会議を設置し地産地消を総合的かつ効果的に推進していくための方策などについて協議。平成22年7月、白山市地産地消推進計画（第1次）を策定、平成27年3月、第2次白山市地産地消推進計画を策定。5年毎の見直し。

(2) 地元農林水産物の販路の確保や開拓のため、市として実施している事業はあるか。

回答：①マルシェ・ドウ・ハクサンの開催、市内で生産される農林水産物やその加工品の認知を図る為、生産者が直接販売を行う。（春と秋の2回開催）、②地産地消簡単料理レシピの募集、本市の基幹作物であるお米の消費拡大と地元産農林水産物のPRを目的に家庭で気軽に出来、ご飯に合う料理のレシピを募集している。（平成28年度応募作品数35、応募者数44人）

(3) ブランド化推進・農業体験ツアーの申込の現状は？

回答：①農林水産物ブランドを認証し、他との差別化を図る。認証された製品についてはキャラクター「白山めぐみん」を印刷するなど認知度向上を図っている。（8品目）、②発酵の里づくり事業（発酵食まつり、発酵素材を生かした新商品の開発）

(4) 学校給食での地元産品の使用率向上のための取組は。

回答：生産者との交流給食会の開催、白山市おでんを食べよう月間の取組、白山市誕生記念給食の実施、優勝レシピの献立実施、地元コシヒカリ1等米を使用（玄米で約150トン）

(5) 地産地消推進店の登録促進のための施策は。

回答：①登録店舗に「推奨店のぼり旗」配布し、市のHPで紹介（登録状況 113 店舗）
②推奨店スタンプラリーの実施（3 個 1 口で応募し抽選で賞品贈呈）（応募数 2455）
（6）キッズキッチンはどのような内容か。

回答：食に関わる体験を通じて豊かな人間性の育成を図ることを目的として、子どもが主役の料理教室を開催し、幼児期からの食育を推進している。対象者：保育所、幼稚園の年長児、実施回数、平成 29 年度は 18 回を予定。（平成 28 年度 19 回で 172 人）

【質疑応答】

Q：学校給食の食育、米飯を子どもたちは喜んで食べていると思うが。残菜率は？

A：目立った残菜はないと聞いている。

Q：ふるさと納税の商品で人気が高いのは？

A：希望が多いのは、米、梨、が多い。特産の詰め合わせ（酒セット）も希望が多い。

Q：地産地消という関係から、給食費の影響は？本市も地元産を使うとなると、価格が高くて出来ない状況があった。JA さんが協力してくれる等バックアップはあるのか。

A：米は基幹作物ということで、バックアップはあるが、副菜については、農協の協力はない。保護者の負担に跳ね返っている。全部が全部白山市の物は使えない。長い目の取組として考えている。地元の方が、農家に 2 年に 1 回見学。直接取引という形もしている。教育委員会も含めてやっている。

【まとめ】

白山市は、石川県の中でも唯一、地産地消課という課があるだけあって、学校給食には白山産のこしひかり 1 等米を使用したり、地産地消簡単レシピのコンテストを行い、最優秀作品を給食に反映させたり、マルシェ・ドウ・ハクサンの開催など、市をあげて全力で地産地消の取組をしているのが素晴らしかった。本市においても、ゆめ畑の他にも出来ることはあるはずなので、委員会でも検討すべきである。

【状況写真】

1. 白山市地産地消課から説明を受ける各委員

